

(6) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)。

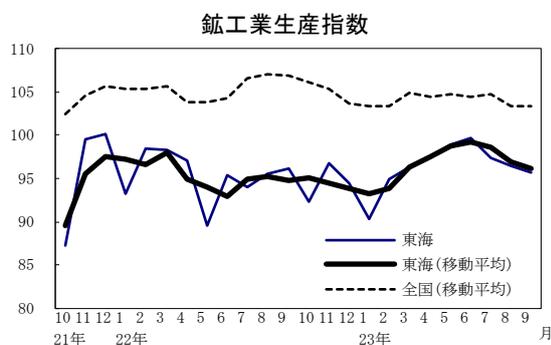
前回からの主要変更点

なし

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7－9月期の鉱工業生産は、前期比2.2%減となった。月別にみると、7月は「電子デバ、電気・情報通信」が減少したこと等により前月比2.3%減、8月は「輸送機械」が減少したこと等により同0.9%減、9月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同0.8%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	40.1	10.7	▲0.9	▲1.1	▲2.0	▲0.3
電子デバ、電気・情報通信	13.3	1.3	▲6.8	▲6.2	▲1.6	0.3
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	3.8	▲2.2	▲3.3	0.3	▲0.6
汎・生産・業務用機械	11.2	▲0.5	▲4.0	▲2.3	▲1.6	▲5.6
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	3.9	▲2.7	▲3.2	▲0.1	▲1.4
鉱工業	100.0	5.1	▲2.2	▲2.3	▲0.9	▲0.8

- (備考) 1. 2015年=100(全国は2020年=100)、季節調整値。
東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7－9月期、9月は速報値。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

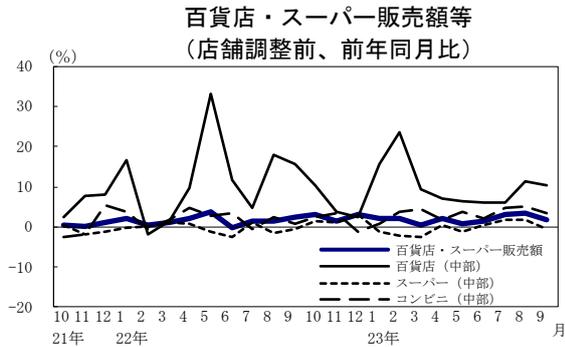
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比0.5%増となった。月別にみると、7月は前月比0.5%増、8月は同0.2%減、9月は同0.4%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比2.8%増となった。月別にみると、7月は前年同月比3.1%増、8月は同3.4%増、9月は同1.8%増となった。



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.5	0.5	▲0.2	▲0.4
百貨店・スーパー(*2)	2.8	3.1	3.4	1.8
百貨店(*3)	9.0	6.1	11.3	10.3
スーパー(*3)	1.1	1.7	1.8	▲0.4
コンビニ(*3)	4.3	4.6	5.0	3.4
乗用車(*4)	16.5	12.6	25.1	13.8
(季節調整値)(*4)	▲0.3	▲5.7	8.3	▲9.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

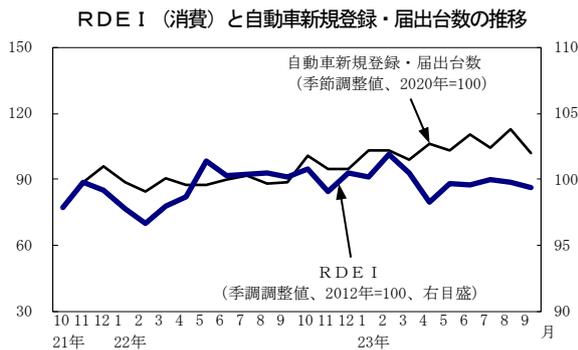
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

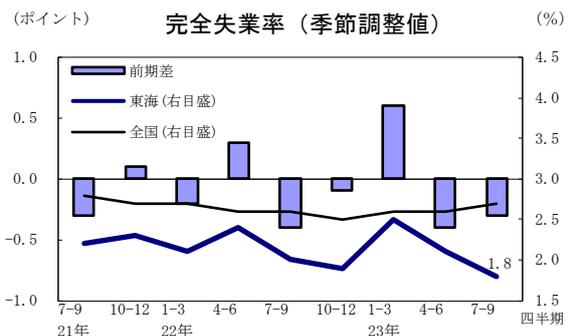
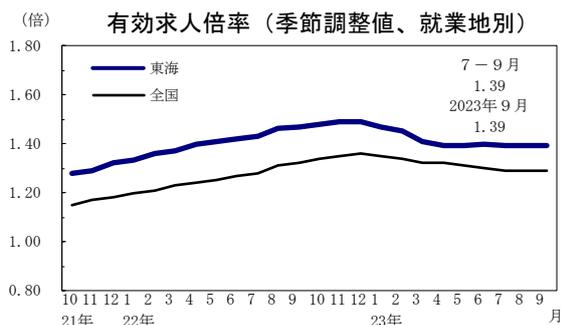
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
○			・8月は前年比80%、9月は前年比83%と改善している。夏の暑さや残暑が無くなり涼しくなってきたため、人の出入りも増えてきた（テーマパーク職員）。
▲			・比較的天候に恵まれた10月だったが、曜日別でピークとなる土曜日ですら混雑状態になる時間は僅かで、来客数は減少した。所持金を気にしながら買物をする様子の客が多く見受けられ、買上点数は減少し、客単価は下落した（コンビニ）。
企業 動向 関連		□	・一般的な製品の受注量は、平年の8割程度だが、水素吸蔵合金の生産量が前年の2倍以上になっているため、生産用の耐火物への注文が受注の不足分を補っている（窯業・土石製品製造業）。
		▲	・建設業では、材料不足や人手不足により原価が高騰し、受注した工事の採算は悪化している。中小企業では、まだ賃上げができていない企業は多くない（金融業）。
		○	・コロナ禍明けで経済活動が徐々に動き出し、受注も少しずつ回復している。世界各地で起こっている紛争の影響で材料費や光熱費が上昇しているため、価格転嫁がスムーズに進むか不透明な部分はあるが、当面の景気は上昇する（電気機械器具製造業）。
雇用 関連	□	・事業の経営環境や利益予測などを加味して、採用継続の判断が徐々に2極化しつつある（民間職業紹介機関）。	
	○	・10月以降求職者の動きが活発となっている。求人企業の採用意欲も引き続き高く、今後のマッチングが期待できる（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：秋になりコロナ禍で中止になっていたイベントが開催され、イベント販売が好調である。店舗の売上も少しずつ上がってきた（一般レストラン）。 □：涼しくなり、朝夕含め日中の客が減っている。駅でのタクシー利用者も減った。深夜の歓楽街でのタクシー利用者数は変わらない（タクシー運転手）。
先行き	家計 動向 関連	□	・飲食料品やガソリン代の値上げの影響などで、旅行先も安近短になっている。比較的旅行に支出できる高齢者やインバウンドの多い地区とそれ以外で差が出てきそうである（旅行代理店）。
		○	・物価高により節約傾向は続くが、新型コロナウイルス感染症収束後初めての年末年始に期待したい（高級レストラン）。
	企業 動向 関連	□	・荷主に対する運賃値上げの交渉は、運賃に対する社会的認識が不足するなかで敬遠、拒否されている。運送業界がコスト高を吸収して価格に転嫁できない構造が続き、物価高騰のしわ寄せは物流費にきている。景気が良くなるとみられる一方で、運送業界が抑圧されている（輸送業）。
		▲	・物価の上昇により、販売量が大きく減っている（食料品製造業）。
	雇用 関連	□	・今後も物価高が続き、より一層商品への価格転嫁が進んでいく。また、会社存続のための利益確保が課題となる。人手不足でありながら、人件費に掛けられる資金が不足している（職業安定所）。
その他の特徴 コメント			▲：減税案が議論されているがまだ先の話であり、冬のボーナスも今の売上では余り期待できない（スーパー）。 ▲：外食や遊びに行く人が増える一方で、ガソリンなど燃料価格の高騰や食料品の値上がりによって、余裕がないという人が増えている（乗用車販売店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（東海）の推移（季節調整値）

